

(3) 製品組立て作業

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）（製品組立作業）

リスクアセスメント対象職場		①～③の実施担当者の実施日		④～⑥の実施担当者の実施日		⑦～⑧の実施担当者の実施日		社長（工場長）	製造部長	製造第○課長
① 作業名 （機械・設備）	② 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害※	③ 既存の災害防止対策	④ リスクの見積り 発生 優先度 可能性 （リスク）		⑤ リスク低減措置案	⑥ 措置実施後の リスクの見積り 発生 優先度 可能性 （リスク）		⑦ 対応措置 措置 実施日 次年度検討事項		⑧ 備考
準備作業	不良の玉掛けワイヤロープを使用したためワイヤロープが切れて吊荷が落下し作業者に当たって負傷する。	ワイヤロープの毎月定期点検	×	△	Ⅲ	①ワイヤロープの点検後、合格品は色分けする。 ②品物に重量表示する。 ③使用前点検	×	○	Ⅱ	●玉掛け訓練の定期的な実施 ●安全バートルでワイヤロープ・吊具のチェックを強化
準備作業 または組立作業	吊荷およびクレーン操作に注意が集中しバランスを崩して脚立から転落する。	クレーン操作者を追加する。	×	△	Ⅲ	①脚立に手すりを設ける。 ②脚立の使用前点検	×	○	Ⅱ	●使用用具の基準のルール化 ●作業台・足場台による足場の確保
準備作業	集積した部品（ユニット）が転倒して、手足を骨折する。	部品の平置き	×	△	Ⅲ	①作業場所の確保と整理整頓 ②部品チェックの徹底 ③重ねる、立てる場合には当てものを使用する。	×	○	Ⅱ	●作業場所の確保 ●部品の小分けを可能にできる区分け箱の利用
準備作業	クレーン操作ミスで荷振れをおこし、共同作業者を負傷させる。	操作スイッチに作動を明示する。	×	△	Ⅲ	①操作中は、他の者は吊り荷に近づかない。 ②玉掛け訓練の定期実施	×	○	Ⅱ	●玉掛け訓練の実施 ●操作スイッチの定期点検（コード含む）
組立作業	部品が滑って落下し、手足を裂傷する。	素手作業と手袋作業の区分	×	△	Ⅲ	①部品、工具の油分除去の徹底 ②素手作業範囲の周知 ③ワイヤロープ掛けの禁止部位を決める。	×	○	Ⅱ	●作業前に注意事項を確認 ●部品を知る勉強会の実施
組立作業	焼き詰め部品に接触し、腕や手指を火傷する。	皮手、軍手の着用	△	△	Ⅱ	①耐熱保護具（手袋、カバ）の使用を徹底する。	△	○	Ⅰ	●作業前の段取り確認
組立作業	部品（ユニット）の取付けもしくは取り外し時に部品が落下して、手や足を挟まれ負傷する。	部品重量の確認 作業位置、姿勢の相互注意	×	△	Ⅲ	①くさび、台木により、落下を想定し保護できるよう段取りする。	△	△	Ⅱ	●共同作業で行なう ●事前に吊り込みをしてから作業
組立作業	レンチやスパナがボルトからはずれ、反動で手を打撲、裂傷する。	工具の油分の除去 無理な作業姿勢の禁止	△	△	Ⅱ	①正しい工具の使い方の教育 ②工具の代用を禁止する。	△	○	Ⅰ	●工具の代用をせず正しく使うことを繰返し教育

災害の重大度 ×＝致命的・重大 △＝中程度 ○＝軽度 発生可能性 ×＝頻繁・可能性が高いか比較的高い △＝時々・可能性がある ○＝ほとんどない・可能性がほとんどない
優先度 Ⅲ＝直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 Ⅱ＝速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。 Ⅰ＝必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
※災害に至る経緯として「～なので、～して」「～になる」と記述